

橋爪謙一郎の代表著書 2冊のご紹介



葬式は、
悲しみを癒し
つながりを
再生する機会



お父さん、「葬式はいらない」って言わないで

コミュニティのつながりが希薄化し、死別の悲しみとうまく付き合えなくなってきた現代。

本来あったお別れのかたちと、死別の中で生まれる「悲嘆の悲しみ(グリーフ)」を癒し、故人やご遺族らしい後悔しないお別れをするための一冊。

また、葬式をきっかけにつなかりを再生する考え方や、国内外の様々な死別の事例から自分自身のつながりについても見つけ直すことができます。

お父さん、「葬式はいらない」って言わないで

価格：¥756
出版社：小学館101新書(2010/6/1)

書評

橋爪さん、一皮向けた感じ。とても説得力のある本だ。内容はまっとうな「グリーフ」(死別の悲嘆)と「悲しみの儀式」と位置づけられた葬儀についてとても丁寧な議論を展開している。「凄いなあ」と感嘆しながら読んだ。ちょっとした意見の違い、つっこみどころがないわけではないが、この本は葬儀だけでなく、グリーフについて論じた最良の本の一つである。ここまで書かれると、ちょっと嫉妬する。

◆ブログ「碑文谷創のはざまの日々」
<http://romagray.cocolog-nifty.com/himonya/> より一部抜粋しました。



◆表現文化社
「SOGI」編集長
碑文谷 創さん
(ひもんやはじめ)

遺体衛生保存と死化粧のお仕事

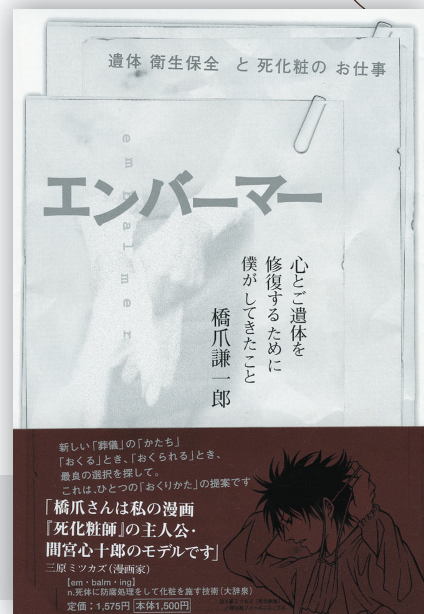
「エンバーマー」

心とご遺体を修復するために僕がしてきたこと
人が亡くなる時、
100人いれば、100通りのおくり方がある。

故人を生前の元気だったころの状態に戻し、ご遺族がゆっくりとお別れをする時間をもてるようにする技術「エンバーミング」。

橋爪謙一郎が半生で味わったたくさんの死と、前向きに生きることを選択していった人の心あたたまる感動のストーリー。

大人気コミック・TVドラマ
「死化粧師」のモデル
橋爪謙一郎
渾身の初著書!



「エンバーマー」心とご遺体を修復するために僕がしてきたこと

価格：¥1,575
出版社：祥伝社(2009/1/28)

新しい「葬儀」の「かたち」
「おくる」とき、「おくられる」とき、
最良の選択を探して
これは、ひとつの「おくりかた」の提案です
「橋爪さんは私の漫画
「死化粧師」の主人公・
間宮心十郎のモデルです」
三原ミツカズ(漫画家)
[en・bain・ing]
n.死体に防腐処理をして化粧を施す技術(大辞林)
定価：1,575円 [本体1,500円]